

ほけんの窓口グループ

就業不能保険の提案力研修実施

生保3社と共同で開催

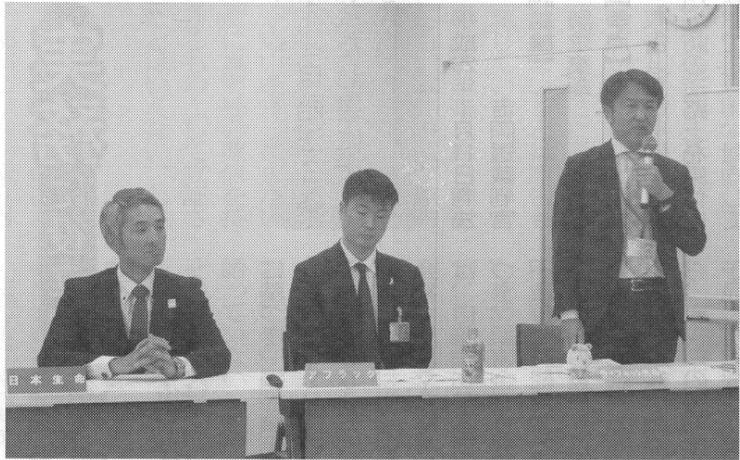
ほけんの窓口グループは1月28日、東京都千代田区の同社本社会議室で「安心の輪を広げる『働けなくなる』への備え」提案力研修を開催した。同研修は、同社において就業不能保険分野の理解を深め、提案力を向上させることを目的に、ほけんの窓口グループ、アフラック、日本生命、ライフネット生命の4社が合同企画し実現したもの。ほけんの窓口グループにとって、競合関係にある複数の保険会社と協働してセミナーに取り組みことは初の試みとなる。2018年11月から全国9都市で13回開催しており、最終開催日のこの日も全体で約160人が参加し、会場は熱気に包まれた。



村上氏

開会に当たってあいさつしたほけんの窓口グループ営業本部教育部担当 氏は、保険会社からの参加者に対し、日ごろの協力に謝意を示した上で、研修参加者と同様の経緯

左から桑山氏、西村氏、近藤氏



第一部では、(病状)を

紹介した。同社では、2014年12月のライフネット生命の就業不能保険「働く人への保険」の取り扱いを皮切りに、日本生命の「もしものときの生活費」とアフラックの「給与サポート保険」とライ

商品に込めた思いを伝える

標準生命表が改定されたことに加え、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の三大疾病による死亡率は低下していると説明。その一方で、後遺症により、働けなくなるリスクは高まっているとして、「(罹患後は)死なない、働けない、(生活費等を)払えない」という状態が続くことになる。医療の進歩とともに、備えるべき保障も死亡保障から就業不能保障へと重点が移ってきている」と説明した。

人により悩まされるという片麻痺になった場合、入浴や着替えといった日常動作にどのような影響が出るのかを具体的に説明し、「片麻痺の人が暮らしていくためには必要になる。顧客にもこうした症状が日常に与える影響から伝えていくことが有効だ」と語った。第二部では、アフラック大型法人営業部営業第一課課長の西村大祐氏、日本生命代理店業務部広域代理店業務課長の桑山信一氏、ライフネット生命執行役員営業本部長の近藤良祐氏に村上氏を加えた4氏によるパネルディスカッションが行われた。



最終開催日には約160人が参加した

の契約者による契約が約201万件に上り、マーケットポテンシャルが大きいと判断したことを紹介した。また、それぞれの商品の特徴として、アフラックは特定障害状態(高度障害でない状態)でも給付が受けられる点と、専門性の高い社労士紹介サービスが受けられる点を、日本生命は「精神・神経疾患」も支払いの対象としている点と職種制限なし(学生・年金受給者等は除く)で加入が可能な点を、ライフネット生命は免責期間が60日と180日から選択でき、保険期間の選択肢が多いことから顧客のカスタマイズが可能な点と妊娠・出産に関する傷病も保障対象となる点等をそれぞれ強調した。

各社の支払要件や給付金手続の流れ、実際の支払い事例も紹介され、脳梗塞による半身まひや、肩関節脱臼、がんに関連する支払いは、参加者からは、「あい

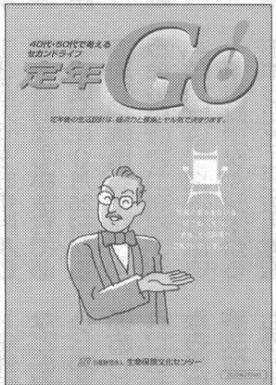
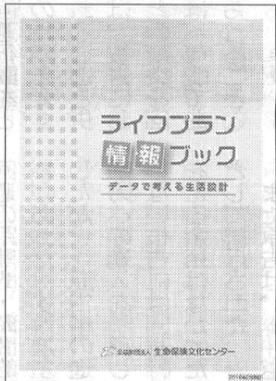
第三部では、村上氏が「医療保険ニード」の顧客に対する就業不能保険のコンサルティング手法を紹介した。知識習得のみにとどまらず、参加者が次の日から習得した知識をすぐに活用できるよう、実際の提案場面を想定したロールプレイングが行われ、参加者らに就業不能リスクの優先順位について考えさせた。参加者からは、「あい

実際に計算をしながら、定年後の資金計画を具体的に考えることができる内容で、社会保障制度や税金、生命保険の活用方法などについても理解を深めることができる小冊子となっている。2冊子ともに、最新の情報や豊富な図表で分かりやすく解説している。

生命保険文化センター

「ライフプラン情報ブック」定年Go!改訂

最新情報を豊富な図表で解説



(公財)生命保険文化センターではこのほど、小冊子「ライフプラン情報ブック」を改訂した。「ライフプラン情報ブック」は、ライフイベント(結婚、出産、育児、教育、住宅取得)や、いざというとき(死亡、病気・けが、老後、介護)に備える上で、参考となるデータや情報を集約した小冊子。「定年Go!」は、